

別表第3

鉄筋コンクリート造の建物の耐力度調査票

予備調査者 株式会社 小林建築事務所
一級建築士登録番号 第 号

I 調査学校		都道府県名	設置者名	学校名	学校調査番号	調査期間	平成29年8月17日 ~ 平成29年9月3日		IV 学校種別	V 整理番号	
II 調査建物		神奈川県	松田町	松田小学校 ②-3屋内運動場棟	2001	調査者	職名	一級建築士登録番号	氏名	小学校	1891
		III 結果点数									
		① 構造耐力	79点								
		② 保存度	53点								
		③ 外力条件	0.93点								
		耐力度	3894点								
		A × B × C									

構造耐力	① (a) 水平耐力 q	階	方向	垂直部材耐力 Q ₀	建物重量 W	層間変形係数 A _i	方向別水平耐力 Q ₀ / (W _i × A _i)	q = q _x × q _y	判別式	評点	評点合計
		1	桁行 X	26809.3	15856.6	1.000	1.69	D10-@100 n=1.00	q ≥ 0.75 1.0	⑦	
			張間 Y	17758.0	15856.6	1.000	1.12	q=1.00 × 1.0 = 1.00	0.75 > q > 0.3 直線補間 q ≤ 0.3 0.3		
		1	層間変形角の逆数 rs		rsの相加平均値 \bar{rs}		Rs = rs / \bar{rs}		Rsの最小値	判別式	
	桁行方向 X		張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	Rsの最小値	Rs ≥ 0.6 1.0 0.6 > Rs > 0.3 直線補間 Rs ≤ 0.3 0.7		
	1	偏心距離 e		弾力半径 re		Re = e / re		Reの最大値	判別式	②	
		桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	Reの最大値	Re ≤ 0.15 1.0 0.15 < Re < 0.3 直線補間 Re ≥ 0.3 0.7		
	1	試験区分	① 梁	② 梁	③ 梁	④ 梁	⑤ 梁	⑥ 梁	判別式	③	
		コア試験	27.5	18.1	22.0	20.5	22.0	1.10	k ≥ 1.0 1.0 1.0 > k > 0.5 直線補間 k ≤ 0.5 0.5		
	1	層間変位 δ		階高 h		θ = δ / h		θの最大値	判別式	④	
桁行方向 X		張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	θの最大値	θ ≤ 1/200 1.0 1/200 < θ < 1/120 直線補間 θ ≥ 1/120 0.5			
1	種別指数 u		形状寸法		鉛直荷重 P	支持力 Ra	耐力指数 β	判別式	⑤		
	木杭	0.8	RC杭	2-300φ	1100.7	696	0.57	β ≥ 1.0 1.0 1.0 > β > 0.5 直線補間 β ≤ 0.5 0.5			
	RC杭	0.9	2-300φ	L=3.0m							
1	粗骨材 (砂利)			細骨材 (砂)			評点	評点	⑥		
	川(山)砂利	塩分を含んだ砂利	軽石	川(山)砂	塩分を含んだ砂	軽石	(1.0)+(1.0) / 2	⑦(⑧) × 20			

保存度	① 経過年数 t	経過年数(残存率 T)	43	T = (47-t)/47 = (47-43)/47 = 0.09	判別式	評点	評点合計			
	② コンクリート中性化深さ及び鉄筋かぶり厚さ	コンクリート中性化深さ a	部位	柱1(柱脚)	梁1	柱2(柱頭)	W4	平均値 a	判別式	評点
			中性化深さ	2.3	4.5	2.0	4.1	3.23	a ≤ 1.5cm 1.0 1.5cm < a < 3cm 直線補間 a ≥ 3cm 0.5	⑦
		鉄筋かぶり厚さ b	部位	柱頭	柱脚	梁1	梁2	平均値 b	判別式	評点
			かぶり厚さ	7.3	8.1	5.6	3.0	6.00	b ≥ 3cm 1.0 3cm > b > 1.5cm 直線補間 b ≤ 1.5cm 0.5	⑧
	③ 鉄筋腐食度 F	部位	柱	梁	グレード平均値 F		評点	⑨		
		状況	部分的に点食を認める。	部分的に点食を認める。	F=(0.8+0.8)/2=0.80		0.8			
	④ 不同沈下 φ	相対沈下量 ε		スパン L		φ = ε / L		φの最大値	判別式	評点
		階	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	φの最大値	⑩
		1	10.0	4.0	2500.0	10000.0	1/250	1/2500	1/250	
φ ≤ 1/500 1.0 1/500 < φ < 1/200 直線補間 φ ≥ 1/200 0.5							0.66			
⑤ ひび割れ C	部位	柱	梁	壁	床	グレード平均値 C		評点		
	状況	幅0.3mm未満のクラックが部分的に認められる。	幅1.0mm以上のクラックが認められる。	幅1.0mm以上のクラックが認められる。	ひび割れはほとんど認められない	C=(0.8+0.5+0.5+1.0)/4=0.7		⑪		
	グレード	1.0 (0.8) 0.5	1.0 0.8 (0.5)	1.0 0.8 (0.5)	1.0 0.8 0.5			0.7		
⑥ 火災による疲弊度 S	程度	構造体変質	非構造材全焼	非構造材半焼	煙害程度	当該階の床面積	被災率 S	判別式	評点	
	被災床面積評価後被災面積 st	s1	0 s2	0 s3	0 s4	0	S=0	S=0 1.0 0 < S < 1 直線補間 S=1 0.5	⑫	

外力条件	① 地震地域係数	② 地盤種別	③ 積雪寒冷地域	④ 海岸からの距離	評点	評点			
	四種地域	1.0	一種地域	1.0	その他地域	1.0	海岸から8kmを超える	1.0	⑬ = (①+②+③+④) / 4
	三種地域	0.9	二種地域	0.9	二級積雪寒冷地域	0.9	海岸から8km以内	0.9	⑭ = (0.8+0.9+1.0+1.0) / 4
	二種地域	0.85	三種地域	0.8	一級積雪寒冷地域	0.8	海岸から5km以内	0.8	